

# 病院ボランティア

## ● 病院ボランティアの活動

日本における病院ボランティアの活動の始まりは定かではないが、淀川キリスト教病院では1962年に3人の若い美容師によって始められており、1974年には日本病院ボランティア協会が設立されている<sup>2)</sup>。日本では、1995年の阪神・淡路大震災がボランティアへの関心が高まった一つの契機と言われているが<sup>3)</sup>、病院ボランティアの活動も広がりを見せ、今日では数多くの病院で行われている。

病院ボランティアは各病院で募集され、登録されている。病院では、病院ボランティアについて統括し責任をもつ部署を組織的に位置づけ、委員会を組織して、よりよく機能するようにしている。

病院ボランティアの活動内容は、病院によって異なる。患者や家族に直接関わる活動はもちろんのこと、職員の補助、清掃や花壇の整備、図書室での資料整理や貸し出し、コンサート開催や絵画・作品の展示など多岐にわたる。たとえば、外来であれば、道案内や車椅子移動の介助、パンフレットの整理、受診に必要な書類の代筆などがある。入院では、配膳の介助やベッドメイキング、物品の運搬などがある。子どものいる病院では絵本の読み聞かせなど子どもの遊びを支援する活動も活発である。

## ● 病院ボランティア活動の意義

病院ボランティアは無対価ではあるが、病院ボランティアが得るものは大きい。病院ボランティアは、病院と同じ地域に住む人や、自分や家族が受診したことをきっかけに活動を始める人が多く、自分がお世話になったことに対して何らかの形で社会や病院に恩返しをしたい、あるいは自分の経験を活かしたいという気持ちがあることが推察される。病院ボランティアとして関わることで、自分の経験や能力が活かされ、患者や家族、あるいは病院スタッフから感謝をされることは、病院ボランティア自身の大きな喜びとなり、生きがいともなる。病院ボランティアとしての経験が自分の生活に役立つこともある。

このような病院ボランティアの活動は、手助けを享受する患者や家族にとっても大きな力になる。車いすを押ししてもらったり、清掃をしてくれたりといった具体的な活動はもちろんのこと、患者や家族は病院ボランティアの自らの意思に基づく活動に勇気づけられたり、病院ボランティアの人生経験に触れることで支えられることがある。病院では、医師や看護師をはじめとして数多くの職員が患者や家族に関わるが、病院ボランティアは職員とは違った機能を持つと言える。

病院職員にとっては、忙しい業務の手助けになると感じることもあるかもしれないが、病院ボランティアは人手不足を補うためにあるのではない。病院ボランティアを受け入れることで、通常の病院サービスを越えるような取り組みやきめ細やかな関わりなど、病院

の機能がよりよくなることや、新たな患者や家族のニーズに気づくことに意義がある。

## 活動におけるリスク管理

病院ボランティアは病院で活動する。そのため、病院という場をふまえたリスク管理が重要である。

まず、病院ボランティアの活動中の事故や他人に与える損害についてのリスク管理である。これについては、病院という場も含めて対象となるボランティア保険がある。病院ボランティアに対しては、病院負担でボランティア保険に加入することを条件にしている病院が多い。たとえば、ボランティア活動中の転倒による事故や、病院ボランティアの往復の事故なども補償の範囲となる。病院ボランティア本人ばかりではなく、患者のコップを割ってしまったなど、他人への損害についても補償される。

次に、病院ボランティアの健康管理がある。結核やインフルエンザなどの感染性疾患については、患者への影響が大きく、病院として病院職員に準じた対応が必要となる。また、病院ボランティアの活動内容は、その人の能力に応じて決められるので、高齢者の参加も多い。そのような場合には、定期的に病院ボランティアとしてしての活動ができるかどうかの判断も必要となる。病院によっては、病院ボランティアに対して健康診断を無償で行っている場合があるが、それはこのようなリスク管理の側面もある。

これらの他、個人情報の管理も求められる。たとえば、病院ボランティアとして活動する際に、知り合いが入院していることや患者に感染症があることなどを知ってしまう可能性はある。たとえ知ったとしても、これらのことは院外で口外するような事項ではない。不用意に口外することで個人情報漏洩にならないよう、管理することが病院に求められる。

このように病院ボランティアとして活動するためには、車いすの押し方などの技術的なことばかりではなく、感染管理を含めた医療安全や情報の取り扱いに対する知識と技術が必要となる。また、患者や家族の心理状態やそれに対応した接し方や一般的な接遇に対する知識と技術も必要である。したがって、病院ボランティアを対象とした研修が不可欠である。

### 文献

- 1) 淀川キリスト教病院 病院ボランティア。  
<http://www.ych.or.jp/saiyou/volanteer/d4eesi0000000cqs.html>, 2016.12.26.閲覧
- 2) 日本病院ボランティア協会 日本病院ボランティア協会とは。  
<https://www.nhva.com/>, 2016.12.26.閲覧
- 3) 平成 12 年度国民生活白書 第 I 部 国民生活を豊かにするボランティア活動 第 1 章 活躍するボランティア。  
<http://www5.cao.go.jp/seikatsu/whitepaper/wp-pl/wp-pl00/hakusho-00-1-11.html>, 2016.12.26.閲覧

(任 和子)